

講義コード	4N008011
講義名	ケアマネジメント論
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
代表曜日	月曜日
代表時限	3時限
科目分類・分野名	看護学専門展開
科目ナンバリング	N4-4409
対象学科・学年	保健看護学科・4年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 和田 幸子	指定なし

担当教員

和田幸子

講義の目的

ケアマネジメントは、生活ニーズと社会資源をつなぐための手法であり、さまざまなサービスを一体的・総合的に提供するための支援方法である。ケアマネジメントは高齢者のみを対象に行うものではないが、介護保険下でサービスを利用する場合、ケアマネジメントは不可欠となっている。地域包括ケアシステムが推進される中、看護師にとってケアマネジメントを学ぶ意義は大きい。このような観点からケアマネジメントの基本理念、意義、方法などを理解する。

到達目標

1. ケアマネジメントの意義、過程、機能を理解する。
2. 介護保険下におけるケアプランの果たす役割を理解する。
3. 障害者ケアマネジメントの基本理念、原則を理解する。
4. ケアマネジメントを行う従事者に求められる資質を検討する。

授業計画表

授業計画

1. ケアマネジメントの概念・構成要素・過程
2. 介護保険におけるケアマネジメント
3. ケアプラン作成の実際（事例）
4. ケアプラン作成（演習）
5. 障害者ケアマネジメントの必要性、実施体制
6. 多職種参加を想定したカンファレンス（演習）
7. ケアマネージャーに求められる資質

成績の評価

レポート70%・平常点30%にて評価する。

自己学習

介護保険制度について復習しておく。

履修上の注意

グループでの意見交換やロールプレイによる演習などを行うため、授業への積極的な参加を期待する。

テキスト

プリント配布

参考文献

授業中に適宜紹介する。

オフィスアワー

在室している場合はいつでも対応します。

研究室

5号館7階C701研究室

授業用E-mail

s.wada@kansai.ac.jp

講義コード	4N080011
講義名	学校保健論
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
代表曜日	
代表時限	
科目分類・分野名	公衆衛生看護学
科目ナンバリング	N4-4205
対象学科・学年	保健看護学科・4年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 平尾 恭子	指定なし

担当教員

三上眞美

講義の目的

学校保健の意義と養護教諭の職務を理解し、学校における現代的な健康課題を把握する。また、児童・生徒等および職員の心身の健康の保持増進と、計画的な保健教育、健康で安全な学校生活を送るための保健管理、家庭・地域との連携等、学校保健の構造を理解し、養護教諭としての対応の基本を学習する。

到達目標

1. 学校保健の意義・目的、歴史的背景が分かる
2. 学校保健の構造を理解することができる
3. 養護教諭の職務と保健室の役割について説明できる
4. 児童・生徒の健康課題を把握する方法を説明できる
5. 現代的な健康課題と、その解決にむけた対応の基本が分かる

授業計画表

授業計画

1. 学校保健の意義・目的と、歴史的背景
2. 学校保健における養護教諭の役割
3. 保健教育（保健学習・保健指導）
4. 保健室で行う救急処置と校内体制について
5. 健康診断等の結果から健康課題を把握する方法
6. 保健管理（学校環境衛生、健康観察、健康診断、学校感染症予防など）
7. 現代的な健康課題に向けた対応

成績の評価

平常点（授業でのレポート含む）60%、レポート40%

自己学習

現代的な児童・生徒の健康課題についてどんな課題があるのかを予習しておき、その中で必要と

される養護教諭の役割や求められる能力について、自分の意見を発表できるようにしておくこと。

履修上の注意

自分の意見、考えを持ち、発表することを望みます。

テキスト

「公衆衛生看護学. jp」（インターメディカル）荒賀直子他編
プリント配布

参考文献

新訂版 学校保健実務必携（第4次改訂版）第一法規
学校保健ハンドブック（第6次改訂）ぎょうせい

講義コード	4N135011
講義名	公衆衛生看護計画論
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
代表曜日	金曜日
代表時限	3時限
科目分類・分野名	公衆衛生看護学
科目ナンバリング	N4-4204
対象学科・学年	保健看護学科・4年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 平尾 恭子	指定なし

担当教員

平尾恭子、室谷牧子、西井崇之

講義の目的

実習地域の健康課題を明確化し、解決するための地域診断の一連のプロセスについて学ぶとともに、実習地域の地域診断を通して、地域診断の目的・方法、保健師の役割を理解し、地域診断に必要な基礎的能力を習得する。

また、保健師の支援方法である家庭訪問および健康相談の目的・方法、保健師の役割について理解するとともに、新生児訪問および1.6歳児健診場面におけるロールプレイを実施し、基本的な訪問・相談および保健指導技術を習得する。

到達目標

1. 地域診断の目的・方法、保健師の役割を理解する。
2. 地域診断に必要な情報を収集し、整理できる。
3. 整理した情報を分析・アセスメントし、地域の健康課題を明確化できる。
4. 新生児訪問の目的・方法、保健師の役割について理解できる。
5. 紙上事例を通して個人・家族の健康課題を明確化し、家庭訪問による支援計画を立案できる。
6. ロールプレイにより家庭訪問を実施し、評価できる。
7. 乳幼児健診の目的・方法、保健師の役割について理解できる。
8. 紙上事例を通して、1歳6か月児健診の問診・健康相談計画を立案できる。
9. ロールプレイにより1歳6か月児健診の問診・健康相談を実施し、評価できる。
10. 新生児訪問および1歳6か月児健診場面におけるロールプレイを通して、基本的な訪問・相談、保健指導技術を習得できる。

授業計画表

授業計画

1. ガイダンス、地域診断の目的・方法、保健師の役割
2. 地域診断①（情報収集および情報の加工①）
3. 地域診断②（情報収集および情報の加工②）

4. 地域診断③ (情報収集および情報の加工③)
5. 地域診断④ (情報の分析・アセスメント①)
6. 地域診断⑤ (情報の分析・アセスメント②)
7. 地域診断⑥ (情報の分析・アセスメント③)
8. 地域診断⑦ (健康課題の明確化)
9. 地域診断⑧ (健康課題の明確化)
10. 地域診断⑨ (グループ発表・修正)
11. 地域診断⑩ (グループ発表・修正)
12. 新生児訪問① (目的・方法、保健師の役割)
13. 新生児訪問② (家庭訪問計画立案、実施・評価)
14. 1歳6か月児健診① (目的・方法、保健師の役割)
15. 1歳6か月児健診② (問診・健康相談計画立案、実施・評価)

成績の評価

グループの成果物30%、記録・レポート50%、平常点20%

自己学習

家庭訪問、乳幼児健診、保健指導等について復習しておくこと。

履修上の注意

- ・グループでの演習が中心となるためメンバー同士で協力し合い、主体的に計画的に演習をすすめること。
- ・保健師課程選択の者が履修できる。

テキスト

1. 「第4版 公衆衛生看護学jp」(インターメディカル)荒賀直子他著
2. お母さんがもっと元気になる乳児健診 (メディカ出版) 水野克己著

参考文献

随時、紹介する。

オフィスアワー

水曜・午後

研究室

平尾：5号館7階C711研究室、室谷：5号館7階C709研究室、西井：5号館7階C721研究室

授業用E-mail

kyo.hirao@kansai.ac.jp

講義コード	4N143011
講義名	災害・国際看護論
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
代表曜日	水曜日
代表時限	1時限
科目分類・分野名	総合実践看護学
科目ナンバリング	N4-4105
対象学科・学年	保健看護学科・4年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 高岸 壽美	指定なし

担当教員

高岸壽美

講義の目的

- 1、災害看護に関心を持ち実践で使える知識を得る。
- 2、国際的視野にたつて、人々の健康について考えることができる。

到達目標

- 1、1) 災害看護に必要な知識・技術に加え、被災者の生活の側面がイメージでき、生活者としての被災者にどのような看護が必要なのか、また今後の課題は何かを考える。2) 災害が人々に及ぼす影響が理解でき、災害看護の特徴が理解できる。3) 災害サイクルに沿った看護活動の実際がイメージすることができ、看護の方向性が考えられる。4) 災害に備える準備ができる。
- 2、1) 国際看護の概念や変遷が理解できる。2) 国際看護の役割や実際がわかる。

授業計画表

授業計画

- 1、災害看護学について
- 2、災害サイクルから見る災害看護活動
- 3、災害看護に必要な知識・技術
- 4、災害看護活動の実際
- 5、災害時のこころのケア
- 6、国際看護学について（グローバルヘルス・開発と健康など）
- 7、国際救援活動の実際

成績の評価

筆記試験90%

授業参加度（ミニットペーパー提出、討議）10%

自己学習

国内外での災害の発生状況やその被災地の人々の暮らし、被災地の支援活動に関するニュースを把握し、「自分なら何ができるか」を考える。

履修上の注意

何気ない日常が突然寸断され、多くのものを喪失する災害。その場面で、看護者としてすべきことや準備しておくことをしっかり考えることが、発災時の柔軟かつ創造的な活動につながります。しっかり、想像力と創造力を働かせましょう！

テキスト

日本赤十字社看護部編：系統看護学講座 看護の統合と実践（3）災害看護学・国際看護学、医学書院

参考文献

由井りょう子：石巻赤十字病院の100日間、小学館、2011

講義コード	4N150011
講義名	産業保健論
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
代表曜日	金曜日
代表時限	1時限
科目分類・分野名	公衆衛生看護学
科目ナンバリング	N4-4206
対象学科・学年	保健看護学科・4年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 榎田 聖子	指定なし

担当教員

榎田 聖子

講義の目的

産業保健活動の実際を理解し、事業者・勤労者への支援方法について学ぶ。

到達目標

- ①産業保健の理念と目的の理解
- ②産業保健の制度とシステムの理解
- ③産業保健における健康課題の理解
- ④産業保健活動の展開方法の理解

授業計画表

授業計画

第1回目：産業保健とは

第2回目：安全衛生活動について

第3回目：メンタルヘルス対策について

第4回目：作業関連疾患について

第5回目：がん就労について

第6回目：介護と仕事の両立支援について

第7回目：データヘルス計画について

成績の評価

小テスト(60%)

授業への参加状況(20%)
(20%)

提出物
自己学習
テキストの産業保健活動について、読んでくること。 各自、よりよく働くために必要なことはなにか（制度や職場風土など）、どうすれば働きやすい職場となるかを考えてくること。
履修上の注意
看護師国家試験および保健師国家試験の出題範囲についても取り上げるので、可能な限り多くの学生に履修してほしい。
授業は、毎回、講義とグループディスカッションを行い、学びを共有します。
テキスト
「第4版 公衆衛生看護学. jp 」(インターメディカル)荒賀直子他著
参考文献
「産業看護学」(日本看護協会出版会)河野啓子著
オフィスアワー
授業終了後と水曜日昼休み
在室時は対応します。
研究室
5号館7階C713研究室
授業用E-mail
s-masuda@kansai.ac.jp

講義コード	4N246011
講義名	総合看護学実習
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	通年
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
代表曜日	月曜日
代表時限	1 時限
科目分類・分野名	総合実践看護学
科目ナンバリング	N4-4107
対象学科・学年	保健看護学科・4年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 岩井 恵子	指定なし

担当教員

看護系教員全員

講義の目的

看護学実習で学んだ看護をふり返り、自らの課題に基づき、主体的・自律的に取り組み、関心の深い分野においてより看護の専門性を深め、看護実践能力を高める。

到達目標

1. 既習の知識・技術をもとに、主体的に実習に取り組むことができる。
2. 看護職としての責任と倫理をもとに自律的に行動ができる。
3. 保健、医療、福祉に携わるチームの人々と建設的な人間関係を築くことができる。
4. 実習を総合的に評価し、看護職としての自己の看護観を深めることができる。

授業計画表

授業計画

1. 実習オリエンテーション (3年次3月)
2. 実習ガイダンス (4月)
2. 以後は、総合看護学実習要項を参照

成績の評価

総合看護学実習評価表 (70%) 実習記録やレポート等 (30%)

自己学習

自己の学修課題や興味・関心を明確にし、関連する授業の復習を行い、臨地実習に臨む。臨地実習時は、自己学習ノートの提出を求めることもある。

履修上の注意

- *4月の実習ガイダンスで分野を決定する。
- *総合看護学実習要項及び、看護学実習要綱を熟読し、実習に臨む。

テキスト

関係する授業で使用したテキストを参照する。

参考文献

個別指導、グループ指導時に適宜紹介する。

講義コード	4N299011
講義名	総合看護学演習
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	通年
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
代表曜日	火曜日
代表時限	1 時限
科目分類・分野名	総合実践看護学
科目ナンバリング	N4-4106
対象学科・学年	保健看護学科・4年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 岩井 恵子	指定なし

担当教員

保健看護学科看護系教員全員

講義の目的

これまで学修したさまざまな知識や技術を振り返り、統合することにより、保健看護学科のディプロマ・ポリシーにあげている能力が備わっていることを確認するとともに、看護の実践者としての自覚を高める。

なお、当該科目は、「キャリア教育科目」に指定されており、看護学を学び資格を取得した上で、自らが卒業後の職業を選択し将来的にその現場で活躍、貢献できるよう当該科目の授業の一部で「人間力」や「仕事力」が身につくよう展開する。

到達目標

1. 多様な人々とコミュニケーションすることができる。
2. 看護の専門知識を振り返り、統合することができる。
3. 科学的な思考に基づいた判断力と実践力が発揮できる。
4. 看護専門職としての自覚を持ち、課題や問題に主体的に取り組むことができる。

授業計画表

授業計画

1. ～2. ガイダンスと自己を知り適切なキャリアを考える
3. ～4. 社会人基礎力について
5. ～6. プレゼンテーションの準備
7. ～8. 基礎医学に関する総合的な振り返り
9. 模擬面接の体験
10. ～11. 看護実践に必要な基礎的知識の振り返り 1
12. ～13. プレゼンテーションの準備と実施
14. ～15. 看護実践に必要な基礎的知識の振り返り 2
16. ～17. 侵襲性の高い看護技術演習 1
18. ～19. 侵襲性の高い看護技術演習 2
20. ～21. 侵襲性の高い看護技術演習 3
22. 看護職のキャリア

- 23. 多重課題に対応したOSCE (ガイダンス)
- 24. ~25. 新人ナースとしての心得
- 26. ~27. 多重課題に対応したOSCE
- 28. 多重課題に対応したOSCE (振り返り)
- 29. ~30. 総合的な看護の知識の振り返り

成績の評価

試験100%で評価する。

自己学習

- 1. 各授業に関する自己学習は授業内で説明する。
- 2. 今まで学習した内容を自分で整理し理解を深める。

履修上の注意

- 1. この科目は演習科目であるので、5分の4以上の出席がないと単位の認定はできない。
- 2. 実技演習及びOSCEは合格するまで何度も実施する。
- 3. その他について第1回目の授業で説明する。

テキスト

指定しない。

参考文献

授業の中で適宜紹介する。

講義コード	4N319011
講義名	保健医療福祉政策論
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
代表曜日	水曜日
代表時限	1時限
科目分類・分野名	看護にいかす生活と保健
科目ナンバリング	N4-2309
対象学科・学年	保健看護学科・4年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 室谷 牧子	指定なし

担当教員

室谷牧子

講義の目的

行政の保健医療福祉計画と公衆衛生看護活動のつながりを学び、PDCAサイクルに基づく公衆衛生看護活動の展開を理解し、施策に関わる保健師の役割を考察する。
公衆衛生看護活動の展開やハンセン病対策では演習によるアクティブラーニングを行うことで汎用的能力を育成する。

到達目標

- 1) 事例や健康問題を通じて行政サービスや制度化のプロセスとその思考過程を考えられるようになる。
- 2) 人々の暮らしや健康を支える保健医療福祉政策の仕組みについて理解する。

授業計画表

授業計画

- 1回 保健医療福祉の計画と評価①行政計画
- 2回 保健医療福祉の計画と評価②計画策定・PDCA
- 3回 ハンセン病対策を考える (1)
- 4回 健康危機管理対策概要
- 5回 健康危機管理対策と保健所保健師の活動 (1) 特別講義
- 6回 健康危機管理対策と保健所保健師の活動 (2) 特別講義
- 7回 公衆衛生看護活動の展開 (1) 特別講義
- 8回 ハンセン病対策を考える (2) 学外研修
- 9回 同上
- 10回 ハンセン病対策を考える (3) 考察
- 11回 地区組織活動と地域包括ケアシステムの構築 (1) 特別講義
- 12回 地区組織活動と地域包括ケアシステムの構築 (1) 特別講義
- 13回 公衆衛生看護活動の展開 (2) 事業計画立案
- 14回 公衆衛生看護活動の展開 (3) 事業計画立案
- 15回 公衆衛生看護活動の展開 (4) 事業計画プレゼン・特別講義

成績の評価

レポート50%（企画書等）、参加取り組み状況30%、プレゼンテーション20%により総合的に判断する

自己学習

保健医療福祉行政や日常の出来事、歴史的な背景に関心をもち、日常的に新聞等に眼を通す習慣をつける。授業の展開に合わせて必要な作業と学習を計画的に行なうこと。

履修上の注意

主体的に学習し、積極的に授業に参加すること。

演習ではグループで効果的に協力し合い成果につなげる力が求められる。

8回、9回は長島愛生園(〒701-4592 岡山県瀬戸内市邑久町虫明6539番地 電話 0869-25-0321)へ学外研修に行く。研修に関しては別途連絡する。

テキスト

1. 国民衛生の動向2016/2017(厚生統計協会)
2. 公衆衛生看護学JP第4版（インターメディカル）
3. プリント配布

参考文献

随時提示する

オフィスアワー

昼休み

研究室

5号館7階C709研究室

授業用E-mail

muroya@kansai.ac.jp

講義コード	4N370011
講義名	老年看護学実習Ⅱ
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
代表曜日	月曜日
代表時限	1時限
科目分類・分野名	老年・在宅実践看護学
科目ナンバリング	N4-3413
対象学科・学年	保健看護学科・4年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 岩井 恵子	指定なし

担当教員

岩井 恵子 原 希代 川添 英利子

講義の目的

入院を必要とする高齢者の疾病や加齢による身体的・精神的・社会的変化が生活に及ぼす影響を理解し、必要な看護を見出し実践する。また高齢者と家族をとりまく保健・医療・福祉との連携・協働の必要性と、その中での看護の役割を理解する。

到達目標

1. 加齢や疾病による身体的・精神的・社会的変化が理解できる。
2. 加齢や疾病が生活やライフスタイルに及ぼす影響が理解できる。
3. 看護問題を見出すことができる。
4. 看護計画を立案し、実践することができる。
5. 実践を評価することができる。
6. 退院後の生活を把握し、必要な援助が理解できる。
7. 高齢者と家族をとりまく保健・医療・福祉の役割と、連携・協働の方法を理解する。

授業計画表

授業計画

1. 臨地実習（オリエンテーション、患者紹介）
2. 臨地実習（患者の情報収集）
3. 臨地実習（アセスメント）
4. 臨地実習（アセスメント）
5. 看護過程の展開、個別指導
6. 臨地実習（計画した看護の実践）
7. 臨地実習（計画した看護の実践・フィードバック）
8. 臨地実習（実践した看護の振り返り）
9. 受け持ち患者の看護のまとめ
10. 退院支援についてのグループワーク、発表

成績の評価

実習評価表（オリエンテーションで配布）にて評価する。

自己学習

関連する授業の復習を行い、臨地実習に臨む。
自己学習ノート of 提出を求めることもある。

履修上の注意

- * 実習要項をよく読んで（オリエンテーションで配布）臨む。
- * 臨地実習では受け持ち利用者の看護を中心に（看護過程の展開）行う。
- * グループ（オリエンテーションで発表）で行動する。

テキスト

関連する授業で使用したテキストを参照する。

参考文献

個別指導、グループ指導時に適宜紹介する。

オフィスアワー

昼休み

メールで事前に連絡をいただければ調整可。

研究室

5号館7階C701号室（岩井） C710号室（原） C721共同研究室（川添）

講義コード	4N715011
講義名	救命救急看護学
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
代表曜日	木曜日
代表時限	1時限
科目分類・分野名	看護学専門展開
科目ナンバリング	N4-4406
対象学科・学年	保健看護学科・4年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 井村 弥生	指定なし

担当教員

井村 弥生 児嶋 章仁

講義の目的

急病や事故、災害などによる健康状態の破綻は、急激に生命危機に陥ることが多く、そのような状況にある人々を救うことを救命救急医療の役目としている。その救命救急医療の一部に救急看護が位置づけられる。そこで本講義では救命救急医療及び救急看護の基礎的な知識や技術を学修し習得することを目的とする。

到達目標

1. 救急医療の現状と課題、その中の看護の役割を述べるができる。
2. 救急患者の系統的なアセスメントのポイントを理解することができる。
3. 救急患者と家族の心理的援助の必要性について理解することができる。
4. 救命処置の必要性及び具体的内容を理解することができる。

授業計画表

授業計画

- 1 救急医療の現実と課題、倫理的問題、その中での看護の役割について
- 2 救急患者の身体的心理的特徴について
- 3 プレホスピタル・インホスピタルでの救急医療と看護
(救急患者に対するアセスメント)
- 4 救急患者の主要病態への看護①
- 5 救急患者の主要病態への看護②
- 6 救急医療の実際と救急認定看護師の役割
- 7 救急医療と蘇生処置の実際BLS
- 8 救急医療と蘇生処置の実際ALS

成績の評価

試験80%、レポート課題等20%、総合的に判断する。

自己学習

身体の特徴・解剖生理など学習しておくこと。

テキスト

成人看護学 急性期看護Ⅱ 救急看護 (南江堂)

成人看護学 成人看護技術 (南江堂)

研究室

5号館7階C718号室

講義コード	4N716011
講義名	クリティカルケア論
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
代表曜日	月曜日
代表時限	1時限
科目分類・分野名	看護学専門展開
科目ナンバリング	N4-4407
対象学科・学年	保健看護学科・4年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 児嶋 章仁	指定なし

担当教員

児嶋章仁, 井村弥生

講義の目的

クリティカルケアとは、生命の危機的状況にある対象者への救命治療を意味し、その看護は、突発的な事故や重篤な疾病、身体的侵襲が多大な手術などによるクリティカルな状況に対して、専門的かつ集中的に行われる看護である。本講義では、クリティカルな状況にある対象者の心身の状況を知り、アセスメントの方法や重症化の回避、早期回復に向けた看護援助を理解する。また、生命維持装置などの先端医療や、クリティカルケア看護に必要な家族への精神的援助、チーム医療について考える。

到達目標

1. クリティカルケアが必要な対象者とその特徴について理解する。
2. クリティカルケアにおける看護師の役割について述べるができる。
3. クリティカルケアに必要な看護技術について知る。
4. クリティカルな状況にある患者の家族の理解と援助について理解する。

授業計画表

授業計画

1. クリティカルケアとは クリティカルケア看護の特性と対象者の特徴
2. クリティカルな患者の主要病態の特徴とケア① 呼吸障害とケア
3. クリティカルな患者の主要病態の特徴とケア② 循環障害とケア
4. クリティカルな患者の主要病態の特徴とケア③ 補助循環装置を装着する患者のケア
5. クリティカルな状態にある患者への看護技術 ACLS (二次救命処置) 演習
6. クリティカルケアにおける精神的援助とエンド・オブ・ライフ・ケア
7. クリティカルな状態にある患者への看護の実際① 創傷・熱傷とケア
8. クリティカルな状態にある患者への看護の実際② 感染症、凝固・線溶系障害とケア

成績の評価

試験80%、演習参加状況およびレポート課題20%で評価する。

自己学習

既習の成人看護学および基本的な人体の解剖・生理について復習しておくこと。

履修上の注意

授業・演習内容に応じてレポート課題を提示する。
とりわけ演習には積極的な参加を求める。

テキスト

「系統看護学講座 別巻 クリティカルケア看護学」(医学書院)

参考文献

「系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論」(医学書院)

「系統看護学講座 別巻 救急看護学」(医学書院)

研究室

5号館7階C719研究室

授業用E-mail

a.kojima@kansai.ac.jp

講義コード	4N717011
講義名	先端医療の現状
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
代表曜日	月曜日
代表時限	4時限
科目分類・分野名	看護学専門展開
科目ナンバリング	N4-4410
対象学科・学年	保健看護学科・4年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 岩井 恵子	指定なし

担当教員

水越正人

講義の目的

病院で行われている循環器、消化器、脳神経外科など、さまざまな分野の先進的な治療の実際について学習する。先進的な治療の内容や患者の経過を学ぶことで、その治療を行う患者や家族の心理を理解し、患者や家族に対して必要な看護について考える。

到達目標

1. 日本における先進医療とは何かが理解できる。
2. 日本の医療の現状を見直し、考えを述べることができる。

授業計画表

授業計画

1. 日本における先進医療とは何か
2. 日本の医療の現状を見直す
3. 現代社会の医療の問題点
4. 現代医療のトピックス (循環器)
5. 現代医療のトピックス (消化器)
6. 現代医療のトピックス (脳神経外科)
7. これからの医療について考える

成績の評価

筆記試験、平常点で総合評価する。

履修上の注意

実習を通じて学んできたことを基に、現代社会の医療の問題点からこれからの課題を探り、その対応策についてディスカッションするので、考えをまとめておく。

テキスト

特になし

参考文献

講義の中で適宜紹介する。

講義コード	4N738011
講義名	看護にいかす手技療法
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
代表曜日	月曜日
代表時限	1時限
科目分類・分野名	看護学専門展開
科目ナンバリング	N4-4408
対象学科・学年	保健看護学科・4年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 山本 博司	指定なし

担当教員

山本博司

講義の目的

東洋医学における手技療法は2500年前から応用され進化しながら現在に至っている。東洋医学では患者の自然治癒力を最大限に引き出すことを考えている。それが疾病を治すことの本質であると考えている。この授業では、出来るだけ多くの手技療法を紹介し、それらの本質を解説する。身近な症状を改善するように手技療法の実習も行う。

到達目標

手技療法の長所、短所を理解し、患者がどのようなときに、どのように用いるかを判断できるようになる。

手技療法を行うときに、患者にどのように接し、どのように話すべきかを判断できるようになる。

授業計画表

授業計画

1. 東洋医学総論①
2. 東洋医学総論②
3. 手技療法総論①
4. 手技療法総論②
5. あん摩①理論
6. あん摩②実技
7. あん摩③実技
8. マッサージ①理論
9. マッサージ②実技
10. マッサージ③実技
11. 指圧①理論
12. 指圧②実技
13. 指圧③実技
14. アーユルヴェーダ、その他の手技療法

15. 手技療法まとめ

成績の評価

授業・実習態度、授業中に行う筆記試験により評価する。

自己学習

授業中に紹介する本などを読む。

履修上の注意

授業中に感想・意見などを求められたら、積極的に話すこと。
新しい概念を積極的に考える。
実習中に相手の嫌がることは言わない、しないこと。

テキスト

1. 配布資料

参考文献

適宜、紹介する。

オフィスアワー

月曜日・水曜日の昼休み

研究室

診療・研究棟3階 312号室

講義コード	4N741011
講義名	公衆衛生看護管理論
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
代表曜日	火曜日
代表時限	3時限
科目分類・分野名	公衆衛生看護学
科目ナンバリング	N4-4207
対象学科・学年	保健看護学科・4年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 平尾 恭子	指定なし
非常勤	清水 一二三	指定なし

担当教員

清水一二三

講義の目的

住民ニーズの施策化および地域ケアの展開と質の保証について学ぶとともに、公衆衛生看護における管理的機能について理解し、保健師の役割を考える。さらに、保健師の人材育成について学び、専門的自律について考える。

到達目標

1. 住民ニーズの施策化および地域ケアの継続的・包括的展開とサービス保障について理解できる。
2. 公衆衛生看護活動における事例・地区・事業・予算・組織運営・情報等に関する管理機能を理解できる。
3. 公衆衛生看護活動における健康危機管理について理解できる。
4. 保健師の人材育成について理解し、専門的自律について考えることができる。

授業計画表

授業計画

1. 住民ニーズの施策化および地域ケアの継続的・包括的展開
2. 住民および他機関・他職種との連携・協働とサービスの質保証
3. 公衆衛生看護管理の目的と機能
4. 組織運営と管理
5. 公衆衛生看護管理と情報管理
6. 公衆衛生看護管理と危機管理
7. 公衆衛生看護活動と人材育成

成績の評価

小テスト・レポート等70%、平常点30%にて評価する。

自己学習

既習科目について復習し、下記内容の理解を深めておくこと。

1. 地方自治に関すること
2. 政策・施策・事業
3. 情報管理と個人情報保護
4. 人材育成

その他、講義で配布したプリントは必ず次回までに精読しておく。

履修上の注意

1. 学生が住んでいる自治体に関心をもち、自分自身また家族の生活と関連させて公衆衛生看護管理を捉える。
2. グループワーク等に積極的に参加すること。
3. 受け身にならず主体的に学習し、学生自身の考えを深める。

テキスト

1. 「第4版 公衆衛生看護学」(インターメディカル)荒賀直子他著
2. 「国民衛生の動向2015/2016」(厚生統計協会)
3. プリント配布

参考文献

適宜紹介する。

講義コード	4N742011
講義名	公衆衛生看護学実習
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	通年
講義区分	
基準単位数	5
時間	0.00
代表曜日	木曜日
代表時限	1時限
科目分類・分野名	公衆衛生看護学
科目ナンバリング	N4-4208
対象学科・学年	保健看護学科・4年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 平尾 恭子	指定なし

担当教員

平尾恭子・室谷牧子・西井崇之

講義の目的

保健所・保健センターにおける保健活動および保健・医療・福祉の連携、住民との協働活動、健康危機管理について学び、個人・家族・集団・地域に対する保健師の支援方法・支援技術、保健師の役割を理解するとともに、住民の主体的な健康課題への取り組みを支援するための基礎的能力を習得する。また、地域包括支援センター、小・中学校、健康管理事業所、児童発達支援センターにおける保健活動の実際を知り、保健所・保健センターとの連携について考えるとともに、保健師の役割を考察する。

到達目標

1. 地域診断により地域の健康課題を明らかにし、必要な支援について考えることができる。
2. 地域住民の健康づくりおよび健康危機管理における保健・福祉サービスの実際を知り、保健所・保健センターの機能および役割を理解できる。
3. 個人・家族・集団・地域の健康課題を解決するための保健師の支援方法および支援技術を理解できる。
4. 家庭訪問および健康教育を通して、住民が主体的に健康課題を解決するための基本的な保健指導技術を習得できる。
5. 関係機関・職種の連携および住民との協働活動の必要性を理解し、地域ケアシステム構築における保健師の役割について考察できる。
6. 地域包括支援センター、小・中学校、健康管理事業所、児童発達支援センターにおける保健活動の実際を知り、保健所・保健センターとの連携について考えるとともに、保健師の役割を考察できる。

授業計画表

授業計画

前期に保健所・保健センターにて4週間の実習を行う。

後期に地域包括支援センター、小・中学校、健康管理事業所、児童発達支援センターのいずれかで1週間の実習を行う。

詳細は実習要項参照

成績の評価

実習目標到達度、実習記録、レポート、事前学習、実習態度等により総合的に評価する。

自己学習

実習要項参照

履修上の注意

実習要項参照

テキスト

1. 公衆衛生看護学. JP、インターメディカル、荒賀直子他編
2. 地域保健ノート2017、大阪公衆衛生協会
3. 国民衛生の動向2016/2017、厚生労働統計協会
4. その他、公衆衛生看護学に関連する授業での配布資料。

参考文献

適宜、紹介する

オフィスアワー

水曜・午後

研究室

平尾：5号館7階C711研究室、室谷：5号館7階C709研究室、西井：5号館7階721研究室

授業用E-mail

kyo.hirao@kansai.ac.jp

講義コード	4N743011
講義名	公衆衛生看護学研究
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	通年
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
代表曜日	月曜日
代表時限	5 時限
科目分類・分野名	公衆衛生看護学
科目ナンバリング	N4-4209
対象学科・学年	保健看護学科・4年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 平尾 恭子	指定なし

担当教員

平尾恭子、室谷牧子、西井崇之

講義の目的

研究方法論基礎で学んだ知識を活用し、これまでの実習において生じた疑問あるいは課題に関する文献検討により、研究課題を明確化する。さらに研究課題を科学的に探求するための研究計画書を作成することを通し、研究の基礎的能力を養う。

到達目標

【到達目標】

1. 実習において生じた疑問あるいは課題に関する文献を検索できる。
2. 文献から得られた知見をふまえ、自身の研究課題を明確化できる。
3. 研究課題に対する研究目的、方法を考えることができる。
4. 研究における倫理的配慮について述べることができる、
5. 研究計画書を作成することができる。

授業計画表

授業計画

1. ガイダンス、研究計画書とは
2. 公衆衛生看護における疑問・課題の明確化
3. 文献検討の方法
4. 文献検討①
5. 文献検討②
6. 文献検討③
7. 文献検討④
8. 文献検討⑤
9. 研究課題の明確化①
10. 研究課題の明確化②
11. 研究計画書の作成①
12. 研究計画書の作成②

13. 研究計画書の作成③
14. 研究計画書の作成④
15. 研究計画書の作成⑤
16. 研究計画書の作成⑥
17. 研究計画書の作成⑦
18. 研究計画書の作成⑧
19. 研究計画書の作成⑨
20. 研究計画書の作成⑩
21. 研究計画書の作成⑪
22. 研究計画書の作成⑫
23. 研究計画書の作成⑬
24. 研究計画書の作成⑭
25. 研究計画書の作成⑮
26. 研究計画書の作成⑯
27. 研究計画書の発表①
28. 研究計画書の発表②
29. 研究計画書の修正①
30. 研究計画書の修正②

成績の評価

レポート70%、平常点30%

自己学習

研究方法論基礎の学習内容を復習しておく。
研究で取り組む疑問あるいは課題に関する文献をしっかりと読み込むこと。

履修上の注意

- ・授業はゼミ形式で行う。
- ・文献をしっかりと読み、自身の考えや意見を述べるができるよう努力すること。
- ・主体的に研究計画書の作成に取り組むこと。受け身で研究はできません。

テキスト

「系統看護学講座 別巻 看護研究」(医学書院) 宮下玲子他著

参考文献

適宜、紹介する。

オフィスアワー

水曜・午後

研究室

平尾：5号館7階C711研究室、室谷：5号館7階C709研究室、西井：5号館7階C721研究室

授業用E-mail

kyo.hirao@kansai.ac.jp

講義コード	4N750011
講義名	助産診断・技術学Ⅰ（妊娠期）
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
代表曜日	月曜日
代表時限	1時限
科目分類・分野名	助産学
科目ナンバリング	N4-4302
対象学科・学年	保健看護学科・4年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 井上 京子	指定なし

担当教員

井上京子、有馬美保、三宅美恵子

講義の目的

妊娠経過を的確に診断するための知識と技術、正常からの逸脱の早期発見と異常への対処について学ぶ。また、妊婦の身体的・心理社会的特性を理解し、妊婦とその家族が妊娠を喜び、より快適で満足がいくマタニティライフが過ごせるような妊婦ケアについて学ぶ。

到達目標

1. 助産診断・技術学の基礎的な考え方を理解する。
2. 妊娠経過が正常であることを診断でき、正常からの逸脱が識別できる。
3. 妊婦とその家族への身体的・心理社会的側面を診断できる。

授業計画表

授業計画

1. 妊娠期の助産診断・技術学の概要
2. 妊娠の生理
3. 妊娠期の心理社会的変化とアセスメント
4. 妊娠期の異常・ハイリスク妊娠
5. 妊娠期の助産診断
6. 妊婦への支援
7. 妊婦への支援 親になる支援
8. 遺伝と遺伝疾患 出生前診断
9. 生殖補助医療
10. 妊娠経過の診断に必要な検査（超音波画像診断）
11. 妊娠経過の診断に必要な検査（超音波検査の実際）
12. 妊娠期に行われる産科手術
13. 周産期と薬剤
14. 周産期のアロマセラピー
15. 東洋医学と助産 助産技術に応用するツボ療法

成績の評価

課題レポート20点、筆記試験80点

自己学習

母性看護方法論Ⅰ、母性看護方法論Ⅱの復習を行って臨む 決められた課題について事前学習する

履修上の注意

主体的に授業に参加する。授業は集中講義になるため、ガイダンス時に日程を確認する。

テキスト

助産学講座2 基礎助産学(2) 母子の基礎科学：医学書院

助産学講座3 基礎助産学(3) 母子の健康科学：医学書院

助産学講座4 基礎助産学(4) 母子の心理社会学：医学書院

助産学講座6 助産診断・技術学Ⅱ (1) 妊娠期：医学書院

参考文献

助産師基礎教育テキスト4 妊娠期の診断とケア：日本看護協会出版会

病気がみえる 産科：メディックメディカ

実践マタニティー診断 第4版：医学書院

今日の助産

オフィスアワー

水・金 12:30~13:00 (井上)

研究室

5号館7階C712研究室 (井上)

講義コード	4N750021
講義名	助産診断・技術学Ⅱ（分娩期）
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
代表曜日	月曜日
代表時限	1時限
科目分類・分野名	助産学
科目ナンバリング	N4-4303
対象学科・学年	保健看護学科・4年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 井上 京子	指定なし

担当教員

有馬美保、井上京子、三宅美恵子

講義の目的

分娩の原理と経過、分娩期の診断に必要な知識と技術、産婦の主体性を尊重し安全で快適な分娩を目指した産婦のケア、異常分娩および緊急事態の予測と対応、産科手術・麻酔および産科医療処置について学ぶ。また、胎児の健康状態アセスメント、ハイリスク新生児の救急蘇生について学ぶ。

到達目標

1. 分娩の原理と経過、分娩の診断に必要な知識と技術、産婦の主体性を尊重し、安全で快適な分娩を目指した産婦のケアを学ぶ。
2. 異常分娩および緊急事態の予測と対応、産科手術・麻酔および産科的医療処置について学ぶ。
3. 胎児の健康状態のアセスメントについて学ぶ。

授業計画表

授業計画

1. 分娩の生理
2. 分娩期の心理社会的変化
3. 分娩期の助産診断（1）
4. 分娩期の助産診断（2）
5. 分娩介助法（1）
6. 分娩介助法（2）
7. 付属物の検査と計測
8. 出生直後の新生児のケア
9. 産婦の支援
10. 分娩期の異常・偶発疾患（1）
11. 分娩期の異常・偶発疾患（2）
12. 産科手術および産科的医療処置

- 13. ハイリスク・異常分娩時の看護支援
- 14. 縫合法（1）
- 15. 縫合法（2）

成績の評価

筆記試験80点 平常点（事前課題等）20点

自己学習

母性看護方法論Ⅰ、母性看護方法論Ⅱを復習して講義に臨む

履修上の注意

学修の主体者であることを自覚して積極的に受講する。集中講義であるため、授業日程はガイダンスの時に確認する。

テキスト

助産学講座7助産診断技術学Ⅱ（2）分娩産褥期：医学書院

参考文献

助産師基礎教育テキスト第5巻 分娩期の診断とケア：日本看護協会出版会
今日の助産：南江堂
実践マタニティ診断：医学書院

オフィスアワー

月～金 昼休み（有馬）

研究室

5号館7階 C709研究室（有馬）

講義コード	4N750031
講義名	助産診断・技術学Ⅲ（産褥期）
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
代表曜日	月曜日
代表時限	1時限
科目分類・分野名	助産学
科目ナンバリング	N4-4304
対象学科・学年	保健看護学科・4年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 井上 京子	指定なし

担当教員

三宅美恵子、井上京子、有馬美保

講義の目的

産褥および新生児期の経過診断の知識と技術、褥婦および新生児のケア、わが子を受容し親役割を獲得するプロセスへの支援、育児を支援するケアと体制などについて学ぶ。

また、受胎調節における指導計画を立案し実践に必要な技術について学ぶ。

到達目標

1. 褥婦・新生児・乳児の健康状態を診断できる。
2. 褥婦の心理社会的な側面について診断できる。
3. 産後の各受胎調節法の特徴を理解し、家族計画実施の支援について述べることができる。

授業計画表

授業計画

1. 産褥期の正常な経過
2. 産褥期の健康診査・助産診断
3. 産褥期の支援
4. 産褥期の心理社会的変化
5. 産褥期の異常・偶発疾患 産褥熱のアセスメントと支援 帝王切開
6. ハイリスク・異常褥婦のアセスメント 母親役割獲得の順調な経過と支援
7. 母乳育児支援
8. 家族計画
9. 新生児のフィジカルアセスメント
10. 出生後24時間以内・以降の早期新生児のケア
11. 新生児の家庭生活への移行とフォローアップ
12. 乳幼児の発育発達と健康診断
13. 乳幼児の健康診査の実際
14. ハイリスク新生児の主要な病態とケア
15. ハイリスク児の支援

成績の評価

平常点（課題レポート等）20点 筆記試験80点

自己学習

母性看護方法論Ⅰ、母性看護方法論Ⅱの復習をして授業に臨む 事前課題に取り組む

履修上の注意

学修の主体者であることを自覚して積極的に受講する。集中講義であるため、ガイダンス時に日程を確認する。

テキスト

助産学講座3 基礎助産学（3）母子の健康科学：医学書院
助産学講座4 基礎助産学（4）母子の心理社会学：医学書院
助産学講座5 助産診断技術Ⅰ：医学書院
助産学講座7 助産診断技術学Ⅱ（2）分娩産褥期：医学書院
助産学講座8 助産診断技術学Ⅱ（3）新生児乳幼児：医学書院
家族計画指導の実際：医学書院
母乳育児支援スタンダード第2版：医学書院

参考文献

今日の助産：南江堂
新生児学入門：医学書院
病気がみえる 産科：メディックメディカ

オフィスアワー

水、金 12：30～13：00 （井上）

研究室

5号館7階 C712研究室（井上）

講義コード	4N751011
講義名	助産診断演習
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
代表曜日	月曜日
代表時限	1 時限
科目分類・分野名	助産学
科目ナンバリング	N4-4305
対象学科・学年	保健看護学科・4年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 井上 京子	指定なし

担当教員

井上京子、有馬美保、三宅美恵子

講義の目的

妊婦・産婦・褥婦と新生児およびその家族に必要な助産診断を理解し、ペーパーペイシエントによる助産診断過程を立案する。特に、分娩期での助産診断は時系列を追って情報収集と統合、ケアの立案ができることを目指す。

助産診断に基づいた保健指導を修得する。

到達目標

1. 妊娠・分娩・産褥期・新生児期に応じた助産診断・実践過程の展開方法を修得する。
2. 助産診断に基づいた保健指導を修得する。
3. 家族計画指導について理解し、保健指導の演習を実施できる。

授業計画表

授業計画

1. 助産活動を支える理論・技術の基本
2. 相談・教育の技術
3. 相談・教育活動の実際
4. 健康教育
5. 思春期女性への援助
6. 助産診断の概要
7. ペーパーペイシエントによる助産診断過程 妊娠期の助産診断・保健指導
8. 分娩期の助産診断・保健指導
9. 家族計画の実際
10. 家族計画指導 グループワーク
11. 産褥期の助産診断・保健指導 グループワーク
12. 助産診断・保健指導 発表
13. 家族計画 まとめ
14. 産後1ヶ月の助産診断・保健指導
15. まとめ

成績の評価

演習参加状況、提出物で総合的に評価する。

自己学習

授業予定項目を事前学習する。

履修上の注意

学修の主体者であることを自覚して積極的に受講する。集中講義であるため、授業日程はガイドランスの時に確認する。

テキスト

助産学講座5 助産診断・技術学Ⅰ：医学書院

実践マタニティ診断：医学書院

助産学講座6 助産診断・技術学Ⅱ（1）妊娠期：医学書院

助産学講座7 助産診断・技術学Ⅱ（2）分娩産褥期：医学書院

助産学講座8 助産診断・技術学Ⅱ（3）新生児乳幼児：医学書院

参考文献

家族計画指導の実際：医学書院

授業内で適時紹介

オフィスアワー

水・金 12：30～13：00 （井上）

研究室

5号館7階C712研究室（井上）

講義コード	4N752011
講義名	助産技術演習
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
代表曜日	月曜日
代表時限	1時限
科目分類・分野名	助産学
科目ナンバリング	N4-4306
対象学科・学年	保健看護学科・4年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 井上 京子	指定なし

担当教員

田中静枝、井上京子、有馬美保、三宅美恵子、生駒妙香

講義の目的

母子の健康診査やケアに必要な技術、正常分娩の基本的介助技術法ができる知識と技術を修得する。

到達目標

妊婦、褥婦・新生児の健康診査、分娩介助など助産の実践に必要な基本的技術を修得する。

授業計画表

授業計画

- | | | | |
|--------------------------------------|--------------|---------|----|
| 1. 妊婦の健康診査に必要な技術 | 外診等 | レオポルド | 井上 |
| 2. 妊婦の健康診査に必要な技術 | 内診等 | | 井上 |
| 3. 正常分娩の基本的介助法 | 準備 | | 有馬 |
| 4. 正常分娩の基本的介助法 | 清潔野作成 | | 有馬 |
| 5. 正常分娩の基本的介助法 | 娩出介助 | | 有馬 |
| 6. 正常分娩の基本的介助法 | 付属物娩出 | 産後2時間まで | 有馬 |
| 7. 正常分娩の基本的介助法 | 産後2時間まで | | 有馬 |
| 8. 分娩進行に応じた産婦への援助 | 産痛緩和 | | 有馬 |
| 9. 褥婦のケアに必要な技術 | 産褥体操 | 産褥診査 | 三宅 |
| 10. 母乳育児支援 | | | 三宅 |
| 11. 母乳育児支援 | | | 三宅 |
| 12. 新生児ケアに必要な技術 | 新生児処置 | | 三宅 |
| 13. ハイリスク新生児ケアに必要な看護技術 | 新生児集中ケア認定看護師 | 小谷 | |
| 14. 母子と運動・補完代替医療 (マタニティヨーガ・ベビーマッサージ) | | | 有馬 |
| 15. マタニティービクス | | | 井上 |

成績の評価

平常点（授業への取り組み等）、分娩介助試験と妊娠期・産褥期の技術試験を総合的に判断する。

自己学習

授業予定項目を事前学習する

履修上の注意

主体的に学修する。集中講義であるため、授業日程はガイダンスの時に確認する。

テキスト

助産学講座3 基礎助産学3 母子の健康科学：医学書院
助産学講座6 助産診断・技術学Ⅱ（1）妊娠期：医学書院
助産学講座7 助産診断・技術学Ⅱ（2）分娩期産褥期：医学書院
助産学講座8 助産診断・技術学Ⅱ（3）新生児乳幼児：医学書院

参考文献

授業内で適時紹介

オフィスアワー

随時可能も事前に連絡する事

研究室

5号館7階C703研究室（田中）
5号館7階C712研究室（井上）
5号館7階C709研究室（有馬）
5号館7階C717研究室（三宅、生駒）

授業用E-mail

s.tanaka@kansai.ac.jp

講義コード	4N753011
講義名	助産管理Ⅰ
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
代表曜日	月曜日
代表時限	1時限
科目分類・分野名	助産学
科目ナンバリング	N4-4307
対象学科・学年	保健看護学科・4年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 井上 京子	指定なし

担当教員

井上京子、有馬美保、三宅美恵子、他

講義の目的

助産業務の管理、助産業務に関連する法規と責任、病院および助産所の管理運営（経営を含む）と連携、リスクマネジメントについて学ぶ。

産科医療事故の特徴を理解し、医療事故を予防するための助産業務管理の在り方について学ぶ。

到達目標

1. 助産業務管理、助産業務に関連する法的責任および倫理を理解する。
2. 助産管理業務の実際を理解する。
3. 病院および助産所の管理運営と連携について理解する。

授業計画表

授業計画

1. 助産管理の基本
2. 関係法規と助産師の義務・責任
3. 周産期医療システムとリスクマネジメント
4. 病院における助産業務管理
5. 助産所における助産業務管理
6. 助産所における助産運営の実際
7. 国際母子保健
8. 助産師と教育

成績の評価

筆記試験80点 平常点（課題レポート等）20点

自己学習

授業予定項目を事前学習する。

履修上の注意

学修の主体者であることを自覚して積極的に受講する。集中講義で行うため、ガイダンスの時に日程を確認する。

テキスト

助産学講座10 助産管理：医学書院
助産学講座9 地域母子保健・国際母子保健：医学書院
助産学講座1 基礎助産学（1）助産学概論：医学書院

参考文献

講義内で適時紹介する。

オフィスアワー

水・金 12：30～13：00(井上)

研究室

5号館7階 C712研究室（井上）

講義コード	4N753021
講義名	助産管理Ⅱ
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
代表曜日	月曜日
代表時限	1時限
科目分類・分野名	助産学
科目ナンバリング	N4-4308
対象学科・学年	保健看護学科・4年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 井上 京子	指定なし

担当教員

有馬美保、三宅美恵子、井上京子

講義の目的

日本の母子保健の動向や地域母子保健活動を学び、今後の助産活動と役割について理解する。災害時の母子支援活動について学ぶ。女性のライフサイクル各期における性と生殖に関する健康課題に対処する能力を養う。

母子とその家族における心理社会的発達段階を学び、健康課題に対する支援を理解する。

到達目標

1. 母子保健の動向を理解し、課題について説明できる。
2. 災害時の母子支援活動、国際支援について理解する。
3. 女性のライフサイクル各期における健康課題と看護活動について説明できる。
4. 周産期にある女性と新生児、家族への支援を学ぶ。

授業計画表

授業計画

1. 母子保健の動向と課題
2. 地域母子保健活動の展開
3. 災害時の母子支援
4. 女性のライフサイクルにおける性と生殖に関する援助の実際（人工妊娠中絶）
5. 女性のライフサイクルにおける性と生殖に関する心理・社会的課題
6. 家族・地域のネットワーク
7. 母親・父親と社会
8. 子どもと社会

成績の評価

筆記試験80点 平常点（課題レポート等）20点

自己学習

授業予定項目を事前学習する。

履修上の注意

学修の主体者であること自覚して積極的に受講する。集中講義であるため、ガイダンス時に授業日程を確認する。

テキスト

助産学講座1 基礎助産学（1）助産学概論：医学書院
助産学講座2 基礎助産学（2）母子の基礎科学：医学書院
助産学講座4 基礎助産学（4）母子の心理社会学：医学書院
助産学講座9 地域母子比肩・国際母子保健：医学書院

参考文献

授業の中で適時紹介する

オフィスアワー

月～金 昼休み（有馬）

研究室

5号館7階 C709研究室（有馬）

講義コード	4N754011
講義名	助産学実習
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	通年
講義区分	
基準単位数	11
時間	0.00
代表曜日	月曜日
代表時限	1時限
科目分類・分野名	助産学
科目ナンバリング	N4-4309
対象学科・学年	保健看護学科・4年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 井上 京子	指定なし

担当教員

田中静枝、井上京子、有馬美保、三宅美恵子、生駒妙香

講義の目的

妊婦・産婦・褥婦および新生児とその家族に対し、助産学の理論と技術を生かし、助産診断を行いながら助産過程を展開し実施する能力を習得する。

安全な助産ケアの提供と異常の早期発見および対処ができる判断力、問題解決能力、実践力を養うとともに、産科医療チームの一員としての助産師の責務や役割、他職種との協働について学ぶ。

到達目標

1. 妊娠期の助産診断・実践過程を展開できる。
2. 分娩期の助産診断・実践過程を展開できる。
3. 産褥期及び新生児の助産診断・実践過程を展開できる。
4. 病院・助産所における助産業務や助産管理の実際を学び、地域母子保健活動での助産師の役割を理解できる。
5. 地域母子保健活動における保健・医療・福祉の連携の実際から、母子保健医療チームの一員としての助産師の役割を理解する。

授業計画表

授業計画

詳細については、実習要項を参照

成績の評価

実習到達度、実習態度、実習記録、事前学習などを総合的に評価する。

自己学習

1. 指定されたテキスト、実習に関連する文献について事前学習する。
2. 分娩介助法など基本的な助産技術について事前学習する。
3. 事前学習については別途説明する。

履修上の注意

- ・実習要項を熟読して臨む。
- ・目標を明確にし、主体的に取り組む。

テキスト

助産学講座 5	助産診断・技術学Ⅰ：医学書院
助産学講座 6	助産診断・技術学Ⅱ（1）妊娠期：医学書院
助産学講座 7	助産診断・技術学Ⅱ（2）分娩期産褥期：医学書院
助産学講座 8	助産診断・技術学Ⅱ（3）新生児乳幼児：医学書院
助産学講座 9	地域母子保健・国際母子保健：医学書院
助産学講座 10	助産管理：医学書院

参考文献

別途、提示する

オフィスアワー

随時可能も事前に予約を入れること。

研究室

- 5号館 7階C703研究室（田中）
- 5号館 7階C712研究室（井上）
- 5号館 7階C709研究室（有馬）
- 5号館 7階C717研究室（三宅、生駒）

授業用E-mail

s.tanaka@kansai.ac.jp

講義コード	4N755011
講義名	助産学研究
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	通年
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
代表曜日	月曜日
代表時限	5時限
科目分類・分野名	助産学
科目ナンバリング	N4-4310
対象学科・学年	保健看護学科・4年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 井上 京子	指定なし

担当教員

井上京子、有馬美保、三宅美恵子

講義の目的

既習の知識と実習での体験をもとに、継続事例でかかわった母子への援助を自己のテーマにそって振り返り、事例研究として論文にまとめる。

到達目標

1. 事例研究の基本的手法が理解できる。
2. 助産実践の諸現象を研究的視点で分析・解釈できる。
3. 研究論文が作成できる。

授業計画表

授業計画

1. 授業ガイダンス
2. 事例研究の進め方
- 3～6. 文献検索、研究テーマの明確化
- 7～14. 研究の実際、各指導教員のもとで指導
15. 中間発表会
- 16～27. 研究の実際、各指導教員のもとで指導
- 28～29. 研究発表会
30. まとめ

成績の評価

授業への取り組み、研究論文などを総合的に評価する。

自己学習

既習の知識や実習を振り返り、疑問や課題を明確にする。

履修上の注意

「3. 文献検索、研究テーマの明確化」以降の授業は各担当教員にわかれてゼミ形式で行う。

テキスト

助産学講座1 基礎助産学（1）助産学概論：医学書院

参考文献

授業内で適時紹介

オフィスアワー

水・金 12：30～13：00 （井上）

月～金 昼休み （有馬）

研究室

5号館7階 C712研究室（井上）

5号館7階 C709研究室（有馬）

講義コード	4N791011
講義名	看護学研究
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	通年
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
代表曜日	月曜日
代表時限	5時限
科目分類・分野名	看護学専門展開
科目ナンバリング	N4-4411
対象学科・学年	保健看護学科・4年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 辻 幸代	指定なし

担当教員

保健看護学科の看護の専任教員

講義の目的

看護に関する知識や技術及び倫理的態度について多くのことを学んできた。看護を学ぶ中で「おや?」と思うことや「なぜだろう?」と感じたことはないだろうか。その小さな疑問を少しずつ解き明かし、よりよい看護を探究することが看護学研究である。この科目を学ぶことで、課題発見、課題分析、探究や思考力等、研究の基礎的な能力を養うことを目的とする。

到達目標

1. 自分の意見を述べ討議することができる。
2. 看護における疑問や課題を明確にする。
3. 課題にそった文献を検討する。
4. 課題にふさわしい研究方法を検討することができる。
5. 研究における倫理的配慮について述べるすることができる。
6. 研究計画書を作成することができる。

授業計画表

授業計画

1. 授業ガイダンス（授業の進め方）
- 2～30. 各ゼミ担当の教員の指導のもと、研究計画書を作成する。

成績の評価

レポート70%と討議内容や事前学習の取り組み内容等30%を総合して評価する。

自己学習

各ゼミごとに事前課題の提示があるのでそれに基づき授業に参加する。

履修上の注意

1. ゼミは、総合看護学実習のグループを基本にして編成する。
2. 保健師を選択した学生は「公衆衛生看護学研究」を、助産師を選択した学生は「助産学研究」を選択すること。

テキスト

指定しない。

参考文献

授業内で適宜紹介する。

オフィスアワー

各ゼミの教員に初回オフィスアワーの説明を受けてください。

研究室

各ゼミの指導教員の研究室。